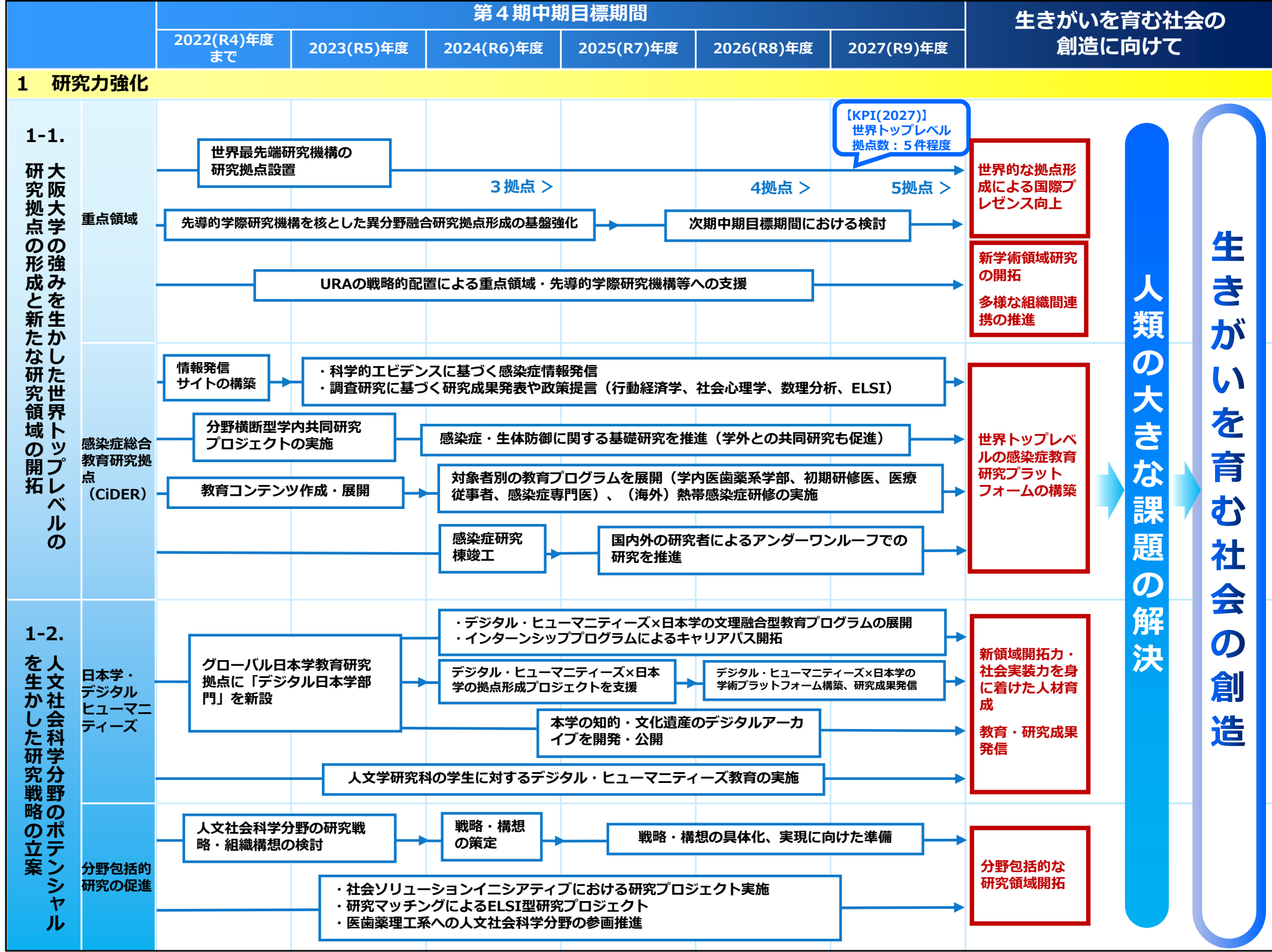




第4期中期目標期間

2022(R4)年度
まで

2023(R5)年度

2024(R6)年度

2025(R7)年度

2026(R8)年度

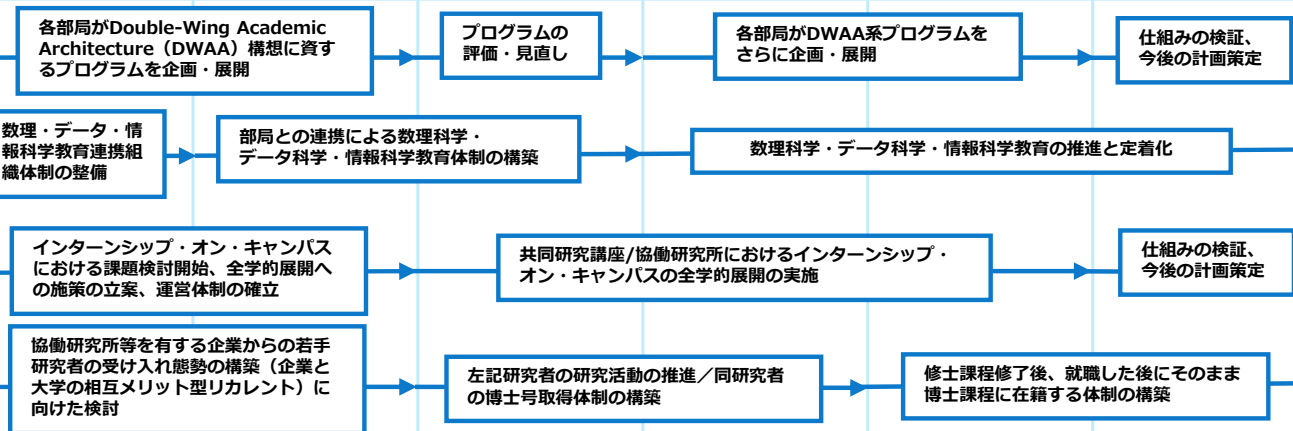
2027(R9)年度

生きがいを育む社会の
創造に向けて

2 人材育成・獲得

2-1. 複眼的視点・俯瞰的視野を 持つ高度専門人材の育成

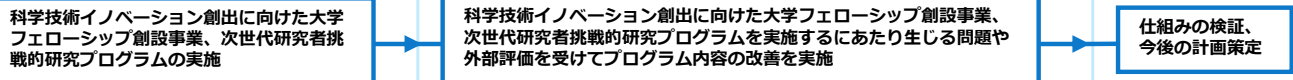
学部～大学院を見通した教育



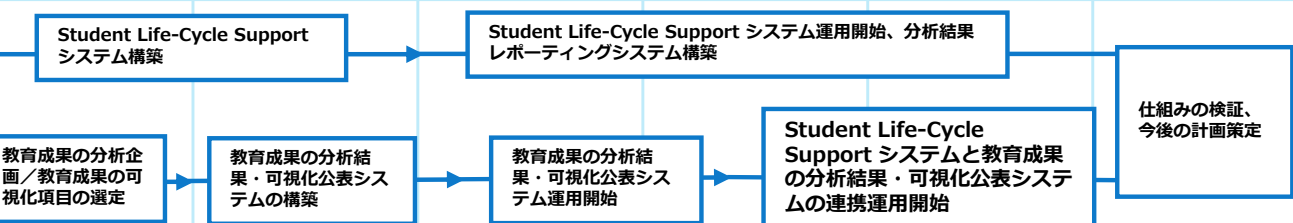
深い専門性と広い視野を持ち、社会的課題に応える人材を育成

2-2. 学生への支援施策の整備 立案と実施体制の整備

優秀な博士後期課程学生の獲得



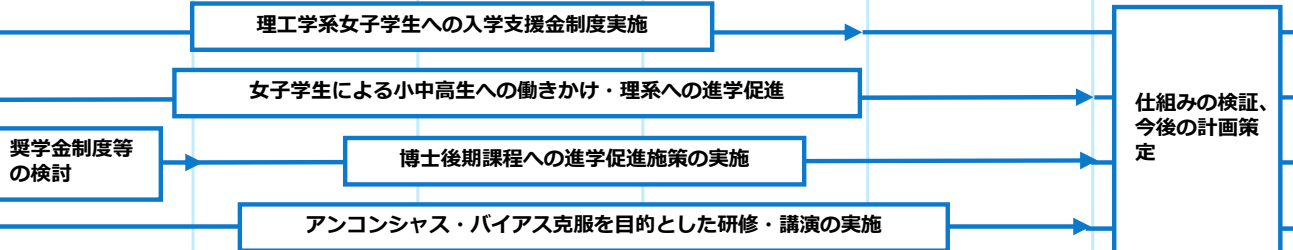
Student Life-Cycle Supportシステム (SLiCS)



教育成果を可視化し、教育の質保証体制を確立

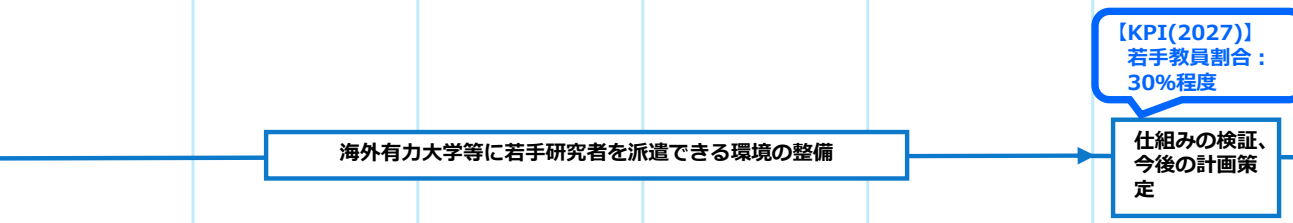
2-3. 将来を担う若手研究者の 雇用・育成

女子学生・理系学生支援



女子学生比率向上

若手研究者支援策



【KPI(2027)】
若手教員割合：
30%程度

若手研究者
比率向上
若手研究者の
研究力向上、
国際展開への
好循環創出

人類の大きな課題の解決

生きがいを育む社会の創造

第4期中期目標期間

生きがいを育む社会の
創造に向けて

2022(R4)年度
まで

2023(R5)年度

2024(R6)年度

2025(R7)年度

2026(R8)年度

2027(R9)年度

3 社会との共創

3-1. 共創機構を軸とした社会との好循環の創出

大型共同研究

・技術シーズの効果的な発信、企業ニーズと技術シーズのマッチングによる共同研究拡充
・競争領域を対象とした共同研究の企画提案、マネジメントの実施による共同研究の大型化、海外展開

【KPI(2027)】
共同研究費受入額(累計):
(全体) 697億円
(1,000万円以上) 488億円

社会課題の解決
新たな社会価値の創出
「知」「人材」「資金」の好循環の実現

知的財産戦略

シーズ抽出

有望シーズ特許出願・強化
技術移転シナリオ実現のための検討

強化した特許を国家プロジェクト採択、共同研究、大学発ベンチャー創成へつなげる

ベンチャー創出

ブレインキュベーション
支援エコシステムの構築

ブレインキュベーション支援エコシステムの支援運用と拡大

体制・制度検証、
今後の計画策定

3-2. 質面キャンパスを活用した社会との共創

OUグローバルキャンパス

・外国語学部、日本語日本文化教育センターの有する言語と文化の多様性を踏まえた、世界と地域を結びつける多彩な活動を展開
・地域団体との共創による地域と一体となった「まちづくり」の検討と実現

社会学共創の体制検証、
今後の計画策定

国際人を育てる
国際拠点の形成
社会学共創の場の醸成

3-3. 社会のステークホルダーと協働したSDGs実現のための基盤整備

全学的なSDGs推進体制の構築

取組の「見える化」等による情報発信
機能強化

SDGsの全学推進等の検証と更なる強化

SDGsへの取組
の見える化

4 国際協働

4-1. 海外の有力大学等の戦略的組織間連携（グローバルナレッジパートナー（GKP））による世界的に卓越した研究拠点の形成

重点3領域を中心とする研究分野において、GKP候補校等の執行部等との協議を行い、GKP特定分野連携の合意を得る

(連携予定)
メルボルン大学
他 2機関

(連携予定)
北米・欧州等 7機関

【KPI(2027)】
重点研究分野を中心
としたGKP校数:
10校程度

国際産学連携の
展開
世界的研究拠点
の形成

4-2. ASEANキャンパスの深化・広域化

マレーシアに
ASEANキャン
パス設置

・ASEANキャンパス設置校の選定
・設置後の取組について候補校と協議

フィリピンに
ASEANキャン
パス設置

アジア諸国等へのネットワーク広域化

高度人材育成に
よるASEAN
地域の社会課題
解決に貢献

・ASEANキャンパス連携機関の選定・交渉及び設置
・ASEANキャンパスのネットワーク展開の制度設計と実施

・学生交流プログラム（受入・派遣）の充実→受入・派遣学生数の増加へ
・ASEANと日本の次世代を担う高度グローバル人材を育成

仕組みの検証、
今後の計画策定

4-3. グローバル人材育成のための体制の充実

留学生の受入

・在学生対象の日本語プログラム継続
・留学生の交流支援、生活相談、就職支援

支援の満足
度検証

検証結果を基にした留学生支援の充実

交流状況検証

協定校交換留学プログラムへの参加促進・検証・改善

継続実施

【KPI(2027)】
留学生数:
3,700人程度

優秀な留学生
の獲得・増加
により、将来
の若手研究者
を育成

短期受入プログラム構築
バーチャル留学開始

短期受入プログラム実施
バーチャル留学の検証、改善

継続実施

日本人学生の
海外派遣

海外研修プログラ
ム、バーチャル留
学の検討・実施

・海外研修プログラムの改善
・バーチャル留学交渉先協定校の再検討・枠の拡大

・短期海外研修とバーチャル留学の継続的実施
・派遣実績の検証、今後の計画策定

日本人学生の
国際性向上

人類の大きな課題の解決

生きがいを育む社会の創造

第4期中期目標期間

生きがいを育む社会の
創造に向けて

2022(R4)年度
まで

2023(R5)年度

2024(R6)年度

2025(R7)年度

2026(R8)年度

2027(R9)年度

5 ガバナンスの強化

5-1.
持続的成長のための
自律的経営に向けた
運営体制の強化

戦略会議の
権限・機能
の見直し

戦略会議の新たな機能の稼働

戦略的なリソース配分の実施
システムの検証、見直し、定着

【KPI(2027)】
総長裁量ポスト：
100ポスト程度（累計）

内部質保証基
本方針を策定

具体的な体制・
仕組みを整備

実施、体制及び仕組みの点検、改善

各系の強みを先
鋭化させる戦略
的なリソース配
分の実現

社会に広く開か
れた内部質保証
システムによる
経営機能の強化

5-2.
D&Iの推進による研
究領域の開拓、女性
研究者の育成及び外
国研究者の参画促
進

基本方針を
策定

教員上位職における女性比率向上施策（差額人件費支援）

部局の自立した人事計画策定・自己点検・自己評価

教員選考におけるダイバーシティ観点の導入

【KPI(2027)】
女性研究者比率：25%
総長裁量ポスト：100ポスト程度（累計）

仕組みの検
証、今後の
計画策定

多様な人材が
活躍する教育
研究環境の構
築

国際ジョイント
ラボ支援の継続

国際ジョイントラボの活動拡大に向けた
評価の仕組み等の検討

国際ジョイントラボの活動やその支援の拡大

海外機関との国際合同会議開催・海外の助成金
獲得に対する支援施策・支援体制の検討

施策、体制の実施及び検証

5-3.
コロナ新時代に対応
する情報基盤整備

執行部等とのコミュニケーションを通じた必要なデータの把握と収集、データ提供

経営判断に資するデータに係る問題を含めた課題の共有、解決の方向性の検討

部局運営に係る
データのニーズ、
活用事例の収集

共通課題の洗
い出し、解決
方法の検討

部局のニーズに応じたデータ分析手法、活用事例の展開・収集

教育・研究・
経営を横断的
に支える基盤
の構築

6 財務基盤の強化

6-1.
大学戦略
の実現を
目指した
多様な財
源の獲得

共同研究収入
等の拡充

社会との共創による共同研究収入等の拡大を通じ、間接経費など裁量的経営資源を増加

大学債等の資
金調達
収入源の確保

大学債発行による
戦略的な財源の確保

雑収入単価の見直し等による収入源の確保

【KPI(2027)】
共同研究費受入額：697億円（累計）
総長裁量経費：42億円

寄附の拡充

・教育、研究、社会貢献にかかわる寄附を増加
・共創機構を中心に各部局等と連携した募金活動を強化（卒業生、企業、地域への働きかけ）

【KPI(2027)】
未来基金：30億円（累計）

100周年に向けた
募金活動プラン策
定、体制強化

自律的な経営
体制を実現す
るための安定
的な財務基盤
の確立

6-2.
多様な財源による資
源配分機能の強化

新たな配分の
枠組み確立

新たな配分の枠組みにより部局の先進的な取組に対して支援

仕組みの点検・改善

仕組みの検証・
今後の計画策定

人件費財源の多様化により、戦略的な人的資源配分の実施

人類の大きな課題の解決

生きがいを育む社会の創造